

一輪車等用具運搬業務委託仕様書

(適用)

第1条 受託者(以下「乙」という。)は、業務の実施に当たっては、この仕様書及び和歌山市(以下「甲」という。)の指示に従わなければならない。

(業務委託期間)

第2条 本業務の委託期間は令和8年4月1日から令和8年6月1日までとする。

(業務内容)

第3条 乙は令和8年5月実施予定の側溝清掃に伴い、一輪車、ジョレン、スコップ、鍬を岡崎倉庫所定の倉庫から甲の指示する用具運搬先に運搬しなければならない。用具運搬先及び配布数は、現在のところ未定であり、実施予定日の一週間前を目処に甲から通知するものとする。なお、過去3年間の配布実績は、別表のとおりである。

- 2 乙は、運搬作業開始前に、甲の立会いのもと、岡崎倉庫から用具を搬出しておかなければならない。
- 3 乙は、甲の調整した日程で用具を運搬する。ただし、必要ならば、用具運搬先の各責任者と協議し、運搬先の確認等を行うものとする。
- 4 乙は運搬作業日毎に、岡崎倉庫の鍵を甲から受け取り、作業終了後、速やかに鍵を返却しなければならない。
- 5 乙は、側溝清掃の各日程終了後、運搬先で用具を回収しなければならない。なお、用具回収時、当初の用具数と一致するか確認することとする。用具数が一致しない場合、乙は、甲に報告しなければならない。
- 6 乙は、側溝清掃の全日程終了後、午後1時から午後4時の間に、岡崎倉庫まで、運搬し、返却しなければならない。
- 7 乙は、作業終了後、作業完了報告書を提出しなければならない。

(委託金額)

第4条 委託金額は、過去の配布実績との相違に関わらず、落札金額から変更しない。

(業務従事者)

第5条 乙は、一般貨物自動車運送事業許可または貨物軽自動車運送事業許可を取得済でなければならない。

(一般事項)

第6条 乙は、業務に使用する機材・トラック等を用意し、業務の用に供しなければならない。

- 2 乙は、業務の実施中、運搬物を破損しないように取り扱い、破損した場合は、原状に回復しなければならない。
- 3 乙は業務の実施中に限らず、市民に対し、親切、丁寧に対応し、苦情が出されることのないようにしなければならない。
- 4 乙は業務の実施中、一般交通に支障を来さないようにし、業務に起因する事故を防止するように努めなければならない。
- 5 定めのない事項又は疑義の生じた事項については、必要に応じて甲乙協議し、定めることとする。

(疑義の質問)

第7条 入札者は、見積期間中に、仕様書において疑義のある場合は、関係職員の説明を求めることができる。ただし、質問事項は文書で担当課長あて提出すること。

2 締切日は入札日（入札日は含まない。）より5日前（ただし、締切日が土曜日及び日曜日並びに国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日になる場合はその前日とする。）の17時までとする。

3 なお、質問事項の回答については、質問者に文書にて回答するとともに、和歌山市ホームページ入札・契約情報画面において公開するものとする。

別表 配布実績

令和7年度配布実績

側溝清掃 実施日	用具配布日	配布地区	※配布箇所	配布用具			
				一輪車	ジョレン	スコップ	鍬
5月11日	5月8日	宮	7	54	5	7	0
		松江	3	10	5	0	0
		木本	6	35	24	14	20
		野崎	10	46	49	40	32
	5月9日	貴志	7	33	33	18	25
		四箇郷	10	94	70	54	17
三田		4	7	0	3	0	
計			47	279	186	136	94

側溝清掃 実施日	用具配布日	配布地区	※配布箇所	配布用具			
				一輪車	ジョレン	スコップ	鍬
5月18日	5月15日	楠見	4	102	74	72	30
		名草	1	5	12	0	12
	5月16日	宮北	1	12	0	0	0
		宮前	10	28	19	33	6
計			16	198	150	144	68

側溝清掃 実施日	用具配布日	配布地区	※配布箇所	配布用具			
				一輪車	ジョレン	スコップ	鍬
5月25日	5月16日	本町	1	2	3	2	1
	5月23日	吹上	4	6	7	9	1
		今福	6	16	8	7	
		砂山	3	8	6	5	
		高松	1	3	3	6	
		城北	2	5	1	1	8
		中之島	8	25	37	29	26
		雄湊	1	1	1		
計			26	66	64	57	41

※配布箇所は、主に自治会長宅と支所・連絡所。なお、運搬先に狭隘道路を含む。

令和6年度配布実績

側溝清掃 実施日	用具配布日	配布地区	※配布箇所	配布用具			
				一輪車	ジョレン	スコップ	鍬
5月12日	5月9日	宮	6	40	4	7	0
		松江	4	10	4	0	0
		木本	6	33	22	13	15
		貴志	5	29	28	10	20
	5月10日	四箇郷	10	94	70	54	17
		三田	6	16	10	21	5
計			37	222	138	105	57

側溝清掃 実施日	用具配布日	配布地区	※配布箇所	配布用具			
				一輪車	ジョレン	スコップ	鍬
5月19日	5月16日	楠見	4	102	74	72	30
		野崎	11	49	49	39	32
	5月17日	宮北	1	12	0	0	0
		宮前	11	31	19	33	6
		名草	1	4	8	0	0
	計			28	198	150	144

側溝清掃 実施日	用具配布日	配布地区	※配布箇所	配布用具			
				一輪車	ジョレン	スコップ	鍬
5月26日	5月16日	本町	1	2	3	2	1
	5月24日	城北	2	5	1	1	8
		雄湊	1	1	1	0	0
		吹上	5	6	6	7	6
		今福	6	16	8	7	0
		砂山	3	8	6	5	0
		高松	1	3	5	6	0
		中之島	8	25	34	29	26
計			27	66	64	57	41

※配布箇所は、主に自治会長宅と支所・連絡所。なお、運搬先に狭隘道路を含む。

令和5年度配布実績

側溝清掃 実施日	用具配布日	配布地区	※配布箇所	配布用具			
				一輪車	ジョレン	スコップ	鍬
5月14日	5月11日	宮北	1	11	0	0	0
		宮	6	42	3	5	0
	5月12日	松江	4	12	3	0	0
		木本	5	29	17	10	13
		貴志	5	28	18	14	18
		中之島	8	24	32	26	26
		宮前	2	17	12	13	3
	5月13日	四箇郷	9	88	67	55	12
		宮前	5	15	7	22	4
		三田	9	18	20	14	11
計			54	284	179	159	87

側溝清掃 実施日	用具配布日	配布地区	※配布箇所	配布用具			
				一輪車	ジョレン	スコップ	鍬
5月21日	5月19日	楠見	4	102	74	72	30
		野崎	10	47	52	36	26
		直川	1	7	3	3	3
		加太	1	2	5	5	5
計			16	158	134	116	64

側溝清掃 実施日	用具配布日	配布地区	※配布箇所	配布用具			
				一輪車	ジョレン	スコップ	鍬
5月28日	5月25日	本町	1	1	3	3	0
	5月26日	吹上	4	8	11	12	5
		今福	6	16	8	7	0
		砂山	3	7	6	5	0
		高松	1	3	1	6	0
		城北	2	5	1	1	8
計			17	40	30	34	13

※配布箇所は、主に自治会長宅と支所・連絡所。なお、運搬先に狭隘道路を含む。

(案)

業務委託契約書

和歌山市（以下「甲」という。）と（以下「乙」という。）は、一輪車等用具運搬業務について、次のとおり委託契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

（委託業務）

第1条 甲は町内側溝清掃に伴う各地区への一輪車等用具運搬業務（以下「委託業務」という。）の履行を乙に委託し、乙はこれを受託するものとする。

（契約期間）

第2条 この契約の期間は、令和8年4月1日から令和8年6月1日までとする。

（委託業務の履行方法）

第3条 乙は、別紙仕様書の内容に従って委託業務を履行しなければならない。

（委託金）

第4条 委託金の額は、円（消費税及び地方消費税を含む。）とする。

（権利義務の譲渡等の禁止）

第5条 乙は、この契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡等により承継させてはならない。ただし、あらかじめ甲の書面による承諾を得た場合、この限りではない。

（再委託等の禁止）

第6条 乙は、委託業務の全部又は一部の履行を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、委託業務の一部の履行についてあらかじめ甲の書面による承諾を得た場合はこの限りではない。

（委託業務の調査等）

第7条 甲は、必要があると認めるときは、委託業者の履行状況について調査を行い、若しくは乙に対して報告を求め、又は乙に対し委託業務の履行に関して必要な指示を与えることができる。

（業務内容の変更等）

第8条 甲は、必要がある場合は、委託業務の内容を変更し、又は委託業務を一時中止することができる。この場合において、委託金額又は契約期間を変更する必要があるときは、甲乙協議して書面により定めるものとする。

2 甲は、前項の場合において、乙が損害を受けたときは、その損害を賠償しなければならない。この場合において、賠償金の額は、甲乙協議して定める。

（損害の負担）

第9条 委託業務の履行に関して発生した損害（第三者に及ぼした損害を含む。以下この項において同じ。）は、乙が負担する。ただし、甲の責めに帰すべき理由により生じた損害は、甲が負担する。

2 甲は、委託業務の履行に関して発生した事故により乙の従業員が受けた損害については、責任を負わないものとする。ただし、甲の責めに帰すべき理由によるときは、この限りでない。

（履行遅滞に係る損害金等）

第10条 甲は、乙の責めに帰すべき理由により契約期間内に委託業務を完了することができない場合において、契約期間後相当の期間内に完了する見込みのあるときは、乙から損害金を徴収して契約期間を延長することができる。

2 前項の損害金の額は、契約金額につき、遅延日数に応じ、年3パーセントの割合で計算した額とする。

（確認）

第11条 乙は、委託業務を履行したときは、遅滞なくその旨を甲が定める方式により甲に通知し、甲の確認を求めなければならない。

2 甲は、前項の規定による確認の請求を受けたときは、委託業務の履行の確認を行わなければならない。

3 甲は、前項により委託業務の履行の確認をしたときは、その旨を乙に通知しなければならない。
(委託金の支払)

第12条 乙は、履行すべき委託業務のすべてについて前条の規定による確認を受けた後、甲に対して、委託金の支払を請求するものとする。

2 甲は、前項の支払請求を受けたときは、その日から30日以内に委託金を乙に支払わなければならない。

3 乙は、甲の責めに帰すべき理由により委託金の支払が遅れた場合は、未領収金額につき、遅延日数に応じ、年2.5パーセントの割合で計算した額の遅延利息の支払を甲に請求することができる。
(甲の解除権)

第13条 甲は、乙の債務不履行の場合によるほか、乙がその責めに帰すべき理由により契約期間中委託業務を継続して履行できる見込みがないと明らかに認められるときは、契約を解除することができる。

2 甲は、前項の規定により契約を解除した場合は、既履行部分に相応する委託金を乙に支払わなければならない。

3 第1項の規定により契約が解除されたときは、乙は、委託金の100分の10に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に甲に支払わなければならない。

(暴力団等排除に係る解除)

第14条 甲は、乙が次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

(1) 乙の役員等(法人にあっては非常勤を含む役員及び支配人並びに営業所の代表者、その他の団体にあっては法人の役員等と同様の責任を有する代表者及び理事等、個人にあってはその者及び支店又は営業所を代表する者をいう。以下同じ。)に次に掲げる者がいると認められるとき。

ア 暴力団員(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(令和3年法律第77号。以下「暴対法」という。)第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。)

イ 暴力団関係者(暴力団員ではないが暴対法第2条第2号に規定する暴力団(以下「暴力団」という。)と関係を持ちながら、その組織の威力を背景として暴力的不法行為等を行う者をいう。以下同じ。)

(2) 乙の経営又は運営に暴力団員又は暴力団関係者(以下「暴力団員等」という。)が実質的に関与していると認められるとき。

(3) 乙の役員等又は使用人が、暴力団の威力若しくは暴力団員等又は暴力団員等が経営若しくは運営に実質的に関与している法人等(法人その他の団体又は個人をいう。以下同じ。)を利用するなどしていると認められるとき。

(4) 乙の役員等又は使用人が、暴力団若しくは暴力団員等又は暴力団員等が経営若しくは運営に実質的に関与している法人等に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど暴力団の維持運営に協力し、又は関与していると認められるとき。

(5) 乙の役員等又は使用人が、暴力団又は暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

(6) 乙の役員等又は使用人が、前各号のいずれかに該当する法人等であることを知りながら、これを利用するなどしていると認められるとき。

(7) 乙が、暴力団又は暴力団員等から、妨害又は不当要求を受けたにもかかわらず、警察への被害届の提出を故意又は過失により怠ったと認められるとき。

2 甲は、前項の規定によりこの契約を解除したときは、これによって生じた甲の損害の賠償を乙に

請求することができる。

- 3 甲は、第1項の規定によりこの契約を解除したことにより、乙に損害が生じても、その責めを負わないものとする。

(談合等不正行為に係る甲の解除)

第15条 乙が次の各号のいずれかに該当したとき、甲は直ちにこの契約を解除することができる。

ただし、その事由が甲の責めに帰すべきものによる場合は、この限りでない。

- (1) 公正取引委員会が、この契約に関し、乙に違反行為があったとして私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。)第49条に規定する排除措置命令(以下「排除措置命令」という。)を行い、当該措置命令が確定したとき。
- (2) 公正取引委員会が、この契約に関し、乙に違反行為があったとして独占禁止法第62条第1項の規定による課徴金の納付を命じ、当該課徴金納付命令(以下「納付命令」という。)が確定したとき(確定した納付命令が独占禁止法第63条第2項の規定により取り消された場合を含む。)
- (3) 公正取引委員会が、この契約に関し、排除措置命令又は納付命令(これらの命令が乙又は乙が構成事業者である事業者団体(以下「契約者等」という。)に対して行われたときは、契約者等に対する命令で確定したものをいい、契約者等に対して行われていないときは、各名宛人に対する命令全てが確定したものをいう。次号において同じ。)を行った場合において、乙に独占禁止法に違反する行為の実行としての事業活動があったとされたとき。
- (4) 排除措置命令又は納付命令により、契約者等に独占禁止法に違反する行為があったとされた期間及び当該違反行為の対象となった取引分野が示された場合において、この契約が当該期間(これらの命令に係る事件について、乙に対する納付命令が確定したときは、当該納付命令における課徴金の計算の基礎である当該違反行為の実行期間を除く。)に入札等(見積書等の提出に基づく受注者選定を含む。)が行われたものであり、かつ、当該取引分野に該当するものであるとき。
- (5) 乙(乙が法人の場合にあっては、その役員又は使用人)がこの契約に関し行った行為について刑法(明治40年法律第45号)第96条の6若しくは第198条又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号の規定による刑が確定したとき。

- 2 乙は、前項各号のいずれかに該当するときは、甲がこの契約を解除するか否かを問わず、賠償金として、契約金額の10分の2に相当する額又は実際の損害額のうちいずれか多い額を甲に対して支払わなければならない。この契約の履行が完了した後にその事由に該当した場合も同様とする。

- 3 甲は、第1項の規定によりこの契約を解除したことにより、乙に損害が生じても、その責めを負わないものとする。

(乙の解除権)

第16条 乙は、甲の債務不履行の場合によるほか、第8条第1項の規定により委託業務の内容を変更したため、委託金の額が3分の2以上減少したときは、契約の解除をすることができる。

- 2 第13条の規定は、前項の規定により契約を解除された場合に準用する。

(賠償金等の徴収)

第17条 甲は、乙がこの契約に基づく賠償金又は違約金を甲の指定する期間内に支払わないときは、甲が乙に支払うべき委託金と相殺し、なお不足のあるときは乙に追徴する。

(守秘義務等)

第18条 乙は委託業務を処理する際に知り得た秘密を漏らしてはならない。

- 2 乙は、その委託業務に従事する者が委託業務を履行する際に知り得た秘密を漏らさないよう指導

しなければならない。

3 乙は、乙又は乙の委託業務に従事した者が秘密を漏らしたため、甲が損害を受けたときは、その損害を賠償しなければならない。

(個人情報取扱特記事項の遵守)

第19条 乙は、委託業務の履行(処理)に当たっては、別記個人情報取扱特記事項を遵守しなければならない

2 甲は、乙が前項の規定に違反して個人情報の取扱いをしていると認めるときは、乙の名称、事務所又は事業所の所在地及び代表者並びに当該違反事実の公表をすることができる。

(補則)

第20条 この契約に定めのない事項又は疑義の生じた事項については、必要に応じて甲乙協議して定める。

この契約の締結を証するため、契約書2通を作成し、双方記名押印の上、各自1通を保有する。

令和8年4月 日

甲 住 所 和歌山市七番丁23番地
和歌山市
氏 名 和歌山市長 尾 花 正 啓

乙 住 所
氏 名

別記

個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1 この契約により、和歌山市（以下「甲」という。）から事務の委託を受けたもの（以下「乙」という。）は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための個人情報の取扱いに当たっては、個人情報の保護に関する法律その他個人情報に関する法令等を遵守し、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報を適正に取り扱わなければならない。

(従事者等の明確化)

第2 乙は、この契約に係る事務の管理責任者及び事務に従事する者（以下「この契約に係る事務に従事する者等」という。）並びにこの契約に係る個人情報を取り扱う場所（以下「作業場所」という。）を明確にし、甲から求めがあったときは、甲に報告しなければならない。

(適正な管理)

第3 乙は、この契約による事務に係る個人情報の漏えい、改ざん、滅失、毀損その他の事故を防止するため、個人情報の取扱いをこの契約に係る事務に従事する者等に限定し、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) この契約に係る事務を処理するために甲から貸与を受けた、又は乙が収集し、複製し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等（以下「個人情報が記録された資料等」という。）について、甲から求めがあったときは、記録を作成すること。

(2) 個人情報が記録された資料等は、この契約に係る事務に従事する者等以外の者が利用できないよう、施錠等管理すること。

(3) その他個人情報の管理のために必要な措置を講じること。

(教育の義務)

第4 乙は、この契約に係る事務に従事する者等に対し、この特記事項の遵守に必要なこと、個人情報の違法な利用及び提供に対して罰則が適用されること等個人情報の保護に関して必要な教育を行わなければならない。

(秘密の保持)

第5 乙は、この契約に係る事務に関して知り得た個人情報を他人に知らせてはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(受託目的以外の利用等の禁止)

第6 乙は、この契約に係る個人情報を当該事務以外の目的に利用し、又は第三者に提供してはならない。ただし、甲の書面による承諾をあらかじめ得た場合又は甲の指示があった場合は、この限りでない。

(複写又は複製の禁止)

第7 乙は、この契約に係る事務を処理するに当たって、甲から貸与された個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。ただし、甲の書面による承諾をあらかじめ得た場合又は甲の指示があった場合は、この限りでない。

(持ち出しの禁止)

第8 乙は、この契約に係る事務を処理するに当たって、作業場所から個人情報を持ち出してはなら

ない。ただし、業務上、やむを得ず、持ち出しするときは、甲の承認を得た上で、書面に記録するものとする。

(再委託の禁止)

第9 乙は、この契約による事務に係る個人情報の処理を自ら行うものとし、第三者にその処理を委託してはならない。ただし、甲の書面による承諾をあらかじめ得た場合は、この限りではない。その際は、乙の責任において、再委託者にこの特記事項の規定を遵守させなければならない。

2 前項の規定は、再委託者が乙の子会社（会社法（平成17年法律第86号）第2条第1項第3号に規定する子会社をいう。）である場合も、同様とする。

(資料等の返還又は廃棄)

第10 乙は、個人情報が記録された資料等を、この契約が終了し、又は解除された後速やかに甲に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、甲が別に指示したときは、その指示に従うものとする。

なお、甲の指示により、個人情報が記録された資料等を廃棄する場合は、復元不可能な方法で確実に廃棄処分を行い、その結果を書面により証明しなければならない。

(報告又は資料の提出)

第11 甲は、個人情報を保護するために必要な限度において、乙に対し、個人情報の管理状況の履行について書面で報告を求めると及び乙の作業場所への立入調査ができるものとし、乙は、甲から改善を指示された場合には、その指示に従わなければならない。

(事故発生時の報告義務)

第12 乙は、個人情報の漏えい、改ざん、滅失、毀損その他の事故が生じた場合に備え、甲に対し、速やかに報告できる緊急時の連絡体制を整備しなければならない。また、事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、速やかに、次に掲げる事項を遵守しなければならない。この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

(1) 直ちに被害を最小限に抑えるための措置を講じ、甲に報告すること。

(2) 当該事故の原因を分析すること。

(3) 甲の求めに応じて、当該事故の再発防止策を実施すること。

(4) 甲の求めに応じて、当該事故の記録を書面で提出すること。

(漏えい等が発生した場合の責任)

第13 乙は、この契約に係る個人情報の漏えい、改ざん、滅失、毀損その他の事態が発生した場合において、その責に帰すべき理由により甲又は第三者に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。また、甲は、必要に応じ、乙の名称、所在地及び代表者並びに当該事故の事実を公表できるものとする。